



## 国総研資料第 1280 号 『空港舗装の設計反復作用回数に関する考察』 を刊行します

滑走路等の空港舗装の設計において舗装厚を左右するのは、航空機交通量と航空機荷重ですが、我が国の空港舗装の設計で用いている交通量指標である設計反復作用回数の算出方法については、文献に概要が記されているものの、換算係数の根拠がわかりにくくなっていました。

本資料では、設計反復作用回数の算出方法に関する文献を整理し、過去及び現行の設計要領に掲載されている換算係数の根拠を明確にすることを目的として研究を実施しました。また、車輪位置の換算方法について、換算係数を用いない方法による設計反復作用回数を試算・分析しました。

### <目次>

- 第1章 はじめに
- 第2章 設計反復作用回数の算出方法の概要
- 第3章 設計反復作用回数の算出方法の変遷
- 第4章 車輪位置の換算方法に関する考察
- 第5章 結論

本資料は、国総研ホームページで公開しています。

ダウンロード先URL：<https://www.ysk.nilim.go.jp/kenkyuseika/pdf/ks1280.pdf>

### (問い合わせ先)

国土技術政策総合研究所 空港研究部

空港新技術研究官 坪川 将丈

TEL：046-844-5019 E-mail：[ysk.nil-46pr@gxb.mlit.go.jp](mailto:ysk.nil-46pr@gxb.mlit.go.jp)